

会議要録

会議の名称	令和５年度 第１回和光市文化財保護委員会
日 時	令和５年５月２２日（月）１０：００～１１：３０
場 所	和光市役所 ５階 ５０２会議室
出席者 ※敬称略	【文化財保護委員】１０名の委員のうち９名が出席 田中明、矢崎康彦、森 朋久、鈴木敏弘、内田はま子、並木實、大平秀和、岩田昌之、稲葉修 ※欠席：保科裕 【事務局】 [教育委員会] 寄口教育部長 [生涯学習課] 亀井次長、山本課長補佐兼文化財保護担当統括主査、 文化財保護担当 中岡主査、鈴木主任、相田主事
傍 聴 者	０名

１ 開会

２ 教育部長あいさつ

本来でしたら教育長からご挨拶申し上げるところですが、あいにく公務がございますので私が代わりにご挨拶させていただきます。

本日は、ご多用のところ和光市文化財保護委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスが落ち着き、第５類に移行し日常の生活が戻ってきたところでございます。皆様におかれましてはこの３年間、書面開催等でご不便をお掛けしましたが、ご協力をいただき会議を行えたことに感謝を申し上げます。

さて、本日の議題にもなっている、『和光市史 平成版』ですが、皆様にご協力いただきまして、発行できましたことを改めて感謝申し上げます。一生懸命作成しまして、素晴らしい内容となっておりますので、ぜひご覧いただけたらと思います。

本日は久しぶりの対面による会議ということでございまして、皆様の忌憚ないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局より説明・報告

- 市民参加条例第１２条第４項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。
- 配布資料について説明。
- 保科委員より所用による欠席の事前連絡をいただいている旨を報告。
- 以降の議事進行は委員長が行う。

４ 議題（協議・報告）

（１）令和４年度文化財事業報告について

○委員長

「議題（1）令和４年度文化財事業報告」について、事務局より説明願いたい。

○事務局

令和４年度文化財事業報告について資料に基づいて説明。（資料１、２参照）

○委員長

事務局の説明に関し、ご質問等のある方はいらっしゃるか。

○岩田委員

『和光市の富士塚』について、いつ、どのような経緯で完成したのか。また、どのような広報をしているのか。

○事務局

富士塚については、文化財保護委員の皆様にご諮問してから調査を行っており、昨年度に報告書の作成を行った。報告書については、現在正誤表が必要ないかどうか確認を行っていることから、本日配布していない。完了したら、皆様に配布させていただく。また、報告書を市民に販売できる段階になったら広報していく。

○鈴木副委員長

このような研究は盛んだから、発行部数 100 部では、関係機関に配布した後、足らなくなるのでは。金額は 200 部でも変わらないのではないか。

○事務局

『和光市の富士塚』は、予算の都合で今回は 100 部の印刷となった。100 部で足りない場合は、増刷の検討をしていきたい。

○並木委員

デジタルミュージアムに『和光市史』をデジタルで掲載していただいているが、『和光市史』のページになかなか辿りつけない。改善してほしい。

○事務局

デジタルミュージアムのトップページに『和光市史』のバナーがあるので、そこからアクセスしていただくことが一番早い。その他にダウンロードページからも見ていただくことができる。今年度に『和光市史 平成版』のデジタル版を掲載する予定があるので、その過程の中で改善できるようであれば改善したいと思う。

○森委員

明治大学の授業でデジタルアーカイブを扱っており、毎年度デジタルミュージアムを使

わせていただいている。今後も紹介していきたい。ただ、『和光市史』は確かにデータが重いので、写真を除いた本文のみの掲載などを検討いただけたらと思う。

(2)『和光市史 平成版』の発行について

○委員長

「議題(2)『和光市史 平成版』の発行について」について、事務局から説明願いたい。

○事務局

『和光市史 平成版』について資料に基づいて説明。(資料3参照)

○委員長

この『和光市史 平成版』の作成にあたりまして、鈴木副委員長が参加されていますので、一言いただきたい。

○鈴木副委員長

私は、行政の特色を出すように提案していたが、最近の傾向として、カタログのような、街の紹介を中心としているような本が多く感じる。今回の市史は委員長が時代にあわせてくれたが、市長の政策の違いや行政の流れが分かるようにまとまったと思う。

作成までの経過が大変だったが、よくここまで辿りつけたと思う。他の委員もそれぞれの立場から意見を出し合い、今の時代に相応しい、歴史的な性格を含めた和光市を紹介できたと思う。

○森委員

デジタル版を作成する予定はあるか。また、小中学生が読むにはかたい内容だと思うが、ダイジェスト版の作成は検討しているか。

○事務局

デジタル版は、デジタルミュージアムに今年度掲載する予定。今は学校で一人一台タブレットを持っているため、それを活用してほしいと思っている。

○森委員

デジタル版の作成にあたっては、著作権に十分気を付けていただきたい。

○委員長

ダイジェスト版とまではいかななくても、ポイントポイントで和光市の歴史をまとめてあげると良いと思う。

○稲葉委員

ダイジェスト版を作成する際には、小中学校で楽しく学んでもらえるような編集の仕方

をしてあげてほしい。

○委員長

発行部数が 1,200 部、400 部を図書館等に配布、800 部を販売用ということで、早期完売を目指してほしい。良い市史ができたと思う。ぜひ委員の皆様にもご一読いただきたい。

(3) 史跡午王山遺跡の保存活用状況について

○委員長

「議題（3）史跡午王山遺跡の保存活用状況」について、事務局から説明願いたい。

○事務局

史跡午王山遺跡の保存活用状況について資料に基づいて説明。（資料 4 参照）

続いて、保存目的調査について資料に基づいて説明。（資料 5、午王山遺跡だより参照）

昨年度午王山遺跡の保存目的調査を行った。その結果、予想していた位置よりも北側で環濠を確認した。今後午王山遺跡遺構分布地図の修正を行う。

午王山の崖下も調査を行ったが、関連した遺構はなく、海によって堆積した層である海成層が確認された。

今年度も保存目的調査を行う予定。環濠の位置を確認するため、予定地を設定した。今後午王山遺跡調査指導委員会や埼玉県、文化庁と協議の上、トレンチの位置等を決めていく。

現在調査に向け調整しており、早ければ 7 月末から調査が開始できる見込みである。

○岩田委員

午王山遺跡の整備にかかる予算は、昨年度と今年度でどの程度で推移しているのか。金額を示してほしい。

○事務局

土地購入の予算の規模が大きいため単純な比較は難しいが、土地購入を含めた午王山遺跡史跡整備事業の予算規模は令和 4 年度が当初予算で約 7500 万円であり、令和 5 年度は約 1 億 6000 万円である。

(4) 令和 5 年度事業計画文化財保護事業について

○委員長

「議題（4）令和 5 年度文化財事業報告」について、事務局より説明願いたい。

○事務局

令和 5 年度文化財事業報告について資料に基づいて説明。（資料 6 参照）

○岩田委員

『和光市史 平成版』について、DVD で販売するという方法もあると思うので検討してほしい。

○委員長

貴重なご意見ありがとうございます。

○並木委員

午王山遺跡展の関連講座の内容はどのようなものか。

○事務局

記念講演会では、午王山遺跡調査指導委員会に参加していただいている、明治大学教授の石川先生、法政大学教授の小倉先生、元埼玉県文化財保護審議会委員の柿沼先生の3名、関連講座では文化財保護委員会の鈴木敏弘先生にお願いする予定。その他事務局のほうでスライドでの概要説明等を行う予定。

(5) その他

○委員長

その他、何かあればお受けしたい。特にないようであれば、委員の皆様から一言お願いしたい。

○矢崎委員

新型コロナウイルスの関係でなかなか開催できなかったが、久々に皆様と対面で開催できて良かった。今後の午王山遺跡の取り組みに期待している。できれば協力していきたい。

○森委員

コロナ渦でも『和光市史 平成版』が発行できたり、事業が進んだことは良いことだと思う。今後ますます新型コロナウイルスが落ち着いてきて発展することを期待している。

○大平委員

午王山遺跡が国史跡になって、これから注目を浴びると思うが、他の文化財についても守っていかないといけないので、調査を続けてほしい。

○岩田委員

私は建築関係で貢献できたかと思っている。大平委員がおっしゃるとおり、他の歴史的建造物が埋もれていると思うので、そのような調査をやってみたかったが新型コロナウイルスの関係でできなかったことは残念に思っている。

○稲葉委員

任期中はコロナ渦の影響で委員の皆様と調査、審議等意見を述べる機会が限られてしま

ったことが心残りだが、皆様に教えていただいたことや資料はとても大切に有意義なものだと思う。ただ次の段階として、それを活用・告知・共有することが大切だと思う。次のことをヒントとして紹介させてほしい。

1. デジタルミュージアムのアクセス数を管理し、アクセスの少ない事項については改変を計る。
2. 活動の成果を市の様々なイベントに絡めて訴求する。(手拭いデザイン・Tシャツを毎年公募して様々なイベント時に販売する等は京都の各町で独自に行われている)
3. 文化財所在地に＜行ってよかった＞と思える＜仕掛け＞を作り魅力を増す。
スタンプ 感想文などの投稿を集め共有する その場所特有の＜食＞を創作する
4. 現場を当時に近い様子に復元し、リアル感を増す。
5. 当該エリアの小中学生が絵と文章による案内資料を作成し現場に用意する。他のイベントに絡めて来場者にお渡しする。

これらの保存→活用→認知訴求→和光市民の＜City Pride＞へとつながる視点を市民の文化的コモンセンスとして醸造していけたらと思う。

○並木委員

事務局が後ろにいと顔が見えないので、昔のように顔が見えるような席の配置にしてほしい。また、富士塚の答申について委員が今後どのように絡んでいくのか教えてほしい。

○内田委員

これまで委員を務めさせていただいたが、今回の任期で区切りとさせていただきたいと考えている。皆様の今後の活躍を祈念する。

○鈴木副委員長

デジタルミュージアムは和光市らしいとは思いますが、現物を見ないと価値が分からない人もいると思う。博物館は地域の歴史や文化を示す地域の顔となる施設であるので、和光市にもぜひ検討してほしい。

○委員長

ありがとうございました。他に協議がないようでしたら、これで協議課題として挙げられた事項の審議は終了といたします。皆様貴重なご意見をありがとうございました。いただいたご意見はしっかり事務局で検討していただき、可能な範囲で応えていただきたいと思います。

6 閉会